

(3) H 地区

a) マント群落・ソデ群落の生育状況

H 地区のマント群落・ソデ群落の生育・形成状況を表 7.1.3-13、図 7.1.3-12 に示した。

無障害物帯縁のマント群落・ソデ群落については、評価図書に示す環境保全措置のとおり、林縁部においてリュウキュウチクの植栽を実施し、マント群落・ソデ群落の早期形成を促した。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(令和元年度)において、低木層が高さ 5.0~5.5m、植被率 30~50%、出現種 7~8 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 40~60%、出現種 19~23 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 5.0m、植被率 50%、出現種 8 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 65%、出現種 24 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

南側は、過年度の調査(令和元年度)において、低木層が高さ 4.5m、植被率 35%、出現種 11~13 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 30~50%、出現種 28~31 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 4.5m、植被率 35%、出現種 12 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 40%、出現種 33 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のクロガヤ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

東側は、過年度の調査(令和元年度)において、亜高木層が高さ 7.0m、植被率 15~25%、出現種 2~3 種、低木層が高さ 3.5m、植被率 10~25%、出現種 5 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 25~30%、出現種 19~27 種であった。今年度調査においては、亜高木層が高さ 7.0m、植被率 25%、出現種 3 種、低木層が高さ 3.5m、植被率 20%、出現種 5 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 35%、出現種 26 種であった。過年度から比較すると、植栽したリュウキュウチクや草本層のコシダ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

西側は、過年度の調査(令和元年度)において、低木層が高さ 4.0m、植被率 30~40%、出現種 3~4 種、草本層が高さ 1.0~1.2m、植被率 5~10%、出現種 22~29 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 4.0m、植被率 40%、出現種 4 種、草本層が高さ 1.2m、植被率 15%、出現種 29 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のアデク等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

以上より、H 地区では、マント群落・ソデ群落が形成されていると考えられたことから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-13(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H地区)

H地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側												南側																				
	H28年度		H29年度				H30年度				R1年度		R2年度		H28年度		H29年度				H30年度				R1年度		R2年度						
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春			
傾斜の向き	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
調査区面積 (m ²)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6				
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
低木層(S)の高さ (m)	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5				
低木層(S)の植被率 (%)	50	20	20	20	25	25	30	30	30	40	40	50	50	50	20	20	20	25	25	30	35	35	35	35	35	35	35	35					
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	4	4	4	4	7	6	7	7	8	8	8	4	8	6	5	9	11	11	12	13	12	11	12	12	12	12					
草本層(H)の高さ (m)	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					
草本層(H)の植被率 (%)	5	10	15	20	25	30	40	40	40	50	50	60	65	1	10	10	10	20	30	40	30	30	50	50	45	40	40	40					
草本層(H)の出現数 (種)	13	22	23	22	23	25	23	23	19	22	19	23	24	4	22	22	23	26	24	27	28	28	30	31	30	33	33	35					
出現種数 (種)	16	24	25	24	24	26	25	25	21	25	23	25	26	7	26	24	26	31	31	31	32	32	33	34	32	35	35	35					
亜高木層(T2)																																	
T2.1 モッコク																																	
T2.2 タイミンタチバナ																																	
T2.3 アデク																																	
低木層(S)																																	
S.1 リュウキュウチク (移植)	3-3	2-3	2-3	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	3-3	2-3	2-3	+2	+2	+2	+	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2				
S.2 イスノキ	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2			
S.3 タイミンタチバナ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
S.4 リュウキュウチク				1-1	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2		+	+	+	+	+	+	1-1	1-1	1-1	1-1	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2				
S.5 ハナガサノキ					+	+	+	+	+	+	+	+	+		+																		
S.6 コバンモチ															+	+	+	+	+	+	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1				
S.7 カクレミノ	+	+	+	+							+	+	+	+																			
S.8 アデク								+								+																	
S.9 シバヤブニッケイ								+	+	+	+	+	+		+																		
S.10 イジュ								+	+	+	+	1-1	1-1	1-1	1-1																		
S.11 シマミサオノキ															+	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1			
S.12 ヤマヒハツ																																	
S.13 シラタマカズラ																																	
S.14 ミミズバイ																+																	
S.15 リュウキュウモチ																																	
S.16 イヌガシ																																	
S.17 オキナワサルトリイバラ										+	+	+	+																				
草本層(H)																																	
H.1 ササクサ	+2	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2	1-2	1-2	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2	3-3	2-2	2-2	3-3	3-3	2-3	1-2	1-2	1-2				
H.2 ハナガサノキ	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+2		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.3 アデク	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.4 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.5 クロガヤ	+	+	+	+2	+2	+2	+2	1-2	1-2	1-2	2-2	2-2	2-2		+	+	+	+2	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2				
H.6 リュウキュウモチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.7 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.8 ササバサンキライ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.9 ヒメズリハ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+																		
H.10 タイミンタチバナ															+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.11 マンリョウ	+						+	+	+						+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.12 アカメガシワ													+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.13 イスノキ		+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2		+	+	+	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1				
H.14 シンエダウチホンダウシダ																																	
H.15 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+																				
H.16 ヤマヒハツ																																	
H.17 コバンモチ															+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.18 スタジイ(イタシイ)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2		+	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+2			
H.19 リュウキュウチク	+	+2	+2	+	+	+	+2	+2	+2	+	+	+	+		+																		
H.20 ギョクシンカ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+																				
H.21 シロミズ																																	
H.22 コシダ		+	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2																				
H.23 カクレミノ															+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.24 インドシャリンバイ		+													+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.25 モクレイシ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+																				
H.26 イジュ		+	+			1-1	1-1								+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
H.27 シロノセンダングサ																																	
H.28 トベラ															+																		
H.29 ヒサカキ																																	
H.30 タブノキ		+				+	+	+	+	+	+	+	+																				
H.31 ツゲモチ																																	
H.32 ウラジロカンコノキ																																	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度—5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群 度—5: かべつ状に分布、4: かべつに穴が開いた状態、3: 大きな斑を形成あるいはまだら状、2: 斑状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-13(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H地区)

H地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側														南側																					
	H28年度		H29年度				H30年度				R1年度				R2年度		H28年度		H29年度				H30年度				R1年度				R2年度					
	秋季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季		
傾斜の向き	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
傾斜角度 (°)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
調査区面積 (m ²)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
低木層(S)の高さ (m)	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.0	5.0	5.0	5.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5			
低木層(S)の植被率 (%)	50	20	20	20	25	25	30	30	30	40	40	50	50	50	20	20	20	25	25	30	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35			
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	4	4	4	4	7	6	7	7	8	8	8	4	8	6	5	9	11	11	12	13	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12			
草本層(H)の高さ (m)	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
草本層(H)の植被率 (%)	5	10	15	20	25	30	40	40	40	50	50	60	65	1	10	10	10	20	30	40	30	30	50	50	45	40	40	40	40	40	40	40	40			
草本層(H)の出現数 (種)	13	22	23	22	23	25	33	23	19	22	19	23	24	4	22	22	23	26	24	27	28	28	30	31	30	33	33	34	32	32	33	34	32			
出現種数 (種)	16	24	25	24	24	26	25	25	21	25	23	25	26	7	26	24	26	31	31	31	32	32	33	34	32	35	35	34	32	33	34	32	35			
草本層(H)																																				
H.33 ホルトノキ	*														*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		
H.34 コバナヒメハギ		+	+		+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	+	+																							
H.35 シマミサオノキ																																				
H.36 ゴイマ																																				
H.37 トキワカモメヅル	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+																							
H.38 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)				+	+	+	+	+	+																											
H.39 ヘクソカズラ				+	+							+	+																							
H.40 ハゼノキ																																				
H.41 ヒョウタンカズラ													+																							
H.42 ソテツ																																				
H.43 シシアクチ																																				
H.44 チガヤ																																				
H.45 ススキ																																				
H.46 オオバギ																																				
H.47 ムッチャガラ																																				
H.48 サザンカ																																				
H.49 リュウキュウテク (再移)																																				
H.50 オニタビラコ																																				
H.51 																																				
H.52 イヌガシ																																				
H.53 エゴノキ																																				
H.54 カタバミ																																				

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群 度→5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

【H地区：北側】



平成 28 年度秋季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

【H地区：南側】



平成 28 年度秋季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

図 7.1.3-12(1) マント群落・ソデ群落の植生状況の推移(H地区)



図 7.1.3-12 マント群落・ソデ群落の植生状況の推移(H地区)

b) 無障害物帯形成地の植生

H地区の無障害物帯の生育・形成状況を表 7.1.3-14、図 7.1.3-13 に示した。

無障害物帯縁の植生の推移をみると、無障害物帯は樹木の伐採が行われた後、埋土種子からの発芽や周辺からの草本類の侵入、赤土対策による種子吹付シバや張芝による植被率の増加がみられ、植生の回復が進んでいることを確認した。

評価図書においては、無障害物帯は早期緑化を行うこととしている。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(令和元年度)において、草本層が高さ 0.6m、植被率 75～90%、出現種 5～7 種であった。今年度調査においては、一階層増え、低木層が高さ 1.2m、植被率 10%、出現種 1 種、草本層が高さ 0.5m、植被率 85%、出現種 7 種であった。過年度から比較すると、リュウキュウチクが生長し低木層と草本層に分化した。また、植被率に目立った増減は無く、継続して植生の回復が確認された。

南側は、過年度の調査(令和元年度)において、草本層が高さ 0.6m、植被率 75～80%、出現種 5～9 種であった。今年度調査においては、草本層が高さ 0.6m、植被率 80%、出現種 8 種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率に目立った増減は無く、継続して植生の回復が確認された。

東側は、過年度の調査(令和元年度)において、草本層が高さ 0.6m、植被率 100%、出現種 4～5 種であった。今年度調査において、草本層が高さ 0.7m、植被率 100%、出現種 6 種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は 100%で維持されていた。

西側は、過年度の調査(令和元年度)において、草本層が高さ 0.4～0.6m、植被率 100%、出現種 3～6 種であった。今年度調査においては、草本層が高さ 0.7m、植被率 100%、出現種 4 種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は 100%で維持されていた。

以上のことから、無障害物帯の植生は回復しており、過年度から継続的に高い植被率が維持されていることから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-14(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(H地区)

H地区 無障害物帯	北側												南側																				
	129年			130年度			R1年度			R2年度			129年			130年度			R1年度			R2年度											
	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季									
傾斜の向き	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S									
傾斜角度 (°)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5									
調査区面積 (m ²)	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2									
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
低木層(S)の植生率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
草本層(H)の高さ (m)	0.3	0.6	0.8	1.0	1.0	0.7	0.3	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6									
草本層(H)の植生率 (%)	95	50	80	70	80	90	60	75	90	90	80	85	60	75	70	70	70	75	80	80	80	80	80	80									
草本層(H)の出現数 (種)	5	4	6	7	6	7	4	5	5	5	7	7	3	8	12	17	10	9	9	7	6	5	9	8									
出現種数 (種)	5	4	6	7	6	7	4	5	5	5	7	7	3	8	12	17	10	9	9	7	6	5	9	8									
低木層(S)																																	
H.1 リュウキュウチク													1-2																				
草本層(H)																																	
H.1 シロノセンダングサ				3-3	5-5	5-5	4-4	5-5	5-5	5-5	4-4	4-4				1-2	2-2	2-2	3-3	3-3	4-4	4-4	3-3	3-3									
H.2 シバ	+2												1-2	3-3	2-2	2-2	2-2	3-3	3-3	3-3	3-3	3-3	1-2	1-2									
H.3 ハマズゲ																																	
H.4 チガヤ							+	+	+	+	1-2	1-2				+	+2	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2	2-2	4-4									
H.5 ギョウギシバ	1-2			+	+2	+	+									3-3	3-4	3-4	3-3	3-3	1-2	+2	+	+									
H.6 カタバミ																																	
H.7 ダンドボロギク				+															+	+													
H.8 オキナワサルトリイバラ							+	+	+												+	+	+	+	+	+	+	+	1-1				
H.9 キバナニフゼキショウ	+			+	+	+	+												+	+	+	+	+										
H.10 タカサブロウ													1-1	2-2																			
H.11 ケニオイグサ																																	
H.12 ヤマグワ																+	+	+	+	+	+	+	+	1-1									
H.13 オオアブラガヤ	+2			+	+	+	+																										
H.14 ササクサ							+	+	1-2	1-2	+	+2																					
H.15 ベニバナボロギク	+			3-3	5-5	2-2																											
H.16 ホウキギク				+2	1-2	+												+	+														
H.17 コバノシキソウ													3-3	+	+																		
H.18 シマニシキソウ													1-1	1-2	+	+	+																
H.19 オオアレチノギク										+												1-2	1-2	+2									
H.20 ホシダ				+	+	+																											
H.21 リュウキュウチク										+	+	+																					
H.22 メヒシバ													+	+	+																		
H.23 コマツヨイグサ													+	+																			
H.24 コハシメテ				+	+																												
H.25 ヒサカキ										+	+																						
H.26 トキワハゼ													1-1	+																			
H.27 ヒメブタナ													+2	+																			
H.28 ギシギシ sp.													+	+																			
H.29 ヒナギキョウ													+	+																			
H.30 ホソバワダン																+	+																
H.31 コメツブウマゴヤシ																																	
H.32 ヒメオニササガヤ	5-5																																
H.33 アラゲヒメワラビ	+																																
H.34 ヒメジョオン				+																													
H.35 コバナヒメハギ							+																										
H.36 ササバサンキライ										+																							
H.37 ススキ										+																							
H.38 オニタビラコ										+																							
H.39 スズメノカタビラ													3-4																				
H.40 チョウジタデ													+																				
H.41 ハマサルトリイバラ													+																				
H.42 ハイニシキソウ													+																				
H.43 スズメノエンドウ																																	
H.44 アメリカフウロ																																	
H.45 ハハコグサ																																	
H.46 アカメガシフ																																	
H.47 ツメクサ																																	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-14(2) 無障害物帯形成地の植生調査結果(H地区)

H地区 無障害物帯	東側												西側												出現回数
	H29年			H30年度			R1年度			R2年度			H29年			H30年度			R1年度			R2年度			
	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	
傾斜の向き	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	
調査区面積 (m ²)	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	1×2	
低木層(S)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
草本層(H)の高さ (m)	0.1	0.1	0.1	0.3	0.5	0.4	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.6	0.6	0.7		
草本層(H)の植被率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
草本層(H)の出現数 (種)	4	5	6	7	5	5	3	4	5	5	5	6	3	3	4	5	4	5	3	6	3	4	4		
出現種数 (種)	4	5	6	7	5	5	3	4	5	5	5	6	3	3	4	5	4	5	3	6	3	4	4		
低木層(S)																									
H.1 リュウキュウチク																								1	
草本層(H)																									
H.1 シロノセンダングサ	+	+	1-2	2-2	2-2	2-2	2-2	3-3	4-4	4-4	4-4	5-5			+	+	+	+	+	1-2	2-2	2-2	3-3	3-3	40
H.2 シバ	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	37
H.3 ハマスゲ	+2	1-2	+2	+2	+2	+2		+	+	+			1-2	1-2	+2	+2	+2	+2		+	+				17
H.4 テガヤ												+	+												16
H.5 ギョウギシバ																									15
H.6 カタバミ	+2	+	+	+	+	+			+	+	+	+				+							+	+	14
H.7 ダンドボロギク							+				+	+							+		+	+	+	+	12
H.8 オキナワサルトリイバラ																									12
H.9 キバナニワゼキショウ																									11
H.10 タカサブロウ														+	+	+	+	+	+						9
H.11 ケニオイグサ		+	+	+	+	+			+	+		+													8
H.12 ヤマグワ																									7
H.13 オオアブラガヤ																									6
H.14 ササクサ																									6
H.15 ベニバナボロギク																									5
H.16 ホウキギク																									5
H.17 コバノシキソウ			+	+																					5
H.18 シマニシキソウ																									5
H.19 オオアレチノギク																									4
H.20 ホンダ																									3
H.21 リュウキュウチク																									3
H.22 メシバ																									3
H.23 コマツヨイグサ																					+				3
H.24 コバンモチ																									2
H.25 ヒサカキ																									2
H.26 トキワハゼ																									2
H.27 ヒメブタナ																									2
H.28 ギシギシ sp.																									2
H.29 ヒナギキョウ																									2
H.30 ホソバワダン																									2
H.31 コメツブウマゴヤシ								+											+						2
H.32 ヒメオニササガヤ																									1
H.33 アラゲヒメワラビ																									1
H.34 ヒメジョオン																									1
H.35 コバナヒメハギ																									1
H.36 ササバサンキライ																									1
H.37 ススキ																									1
H.38 オニタビラコ																									1
H.39 スズメノカタビラ																									1
H.40 チョウジタデ																									1
H.41 ハマサルトリイバラ																									1
H.42 ハイニシキソウ																									1
H.43 スズメノエンドウ																									1
H.44 アメリカフウロ																									1
H.45 ハハコグサ																									1
H.46 アカメガシワ																									1
H.47 ツメクサ				+																					1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベ状に分布、4: カベ状に穴が開いた状態、3: 大きな斑を形成あるいはまだら状、2: 斑状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

【H地区：北側】



平成 29 年度夏季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

【H地区：南側】



平成 29 年度夏季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

図 7.1.3-13(1) 無障害物帯の植生状況の推移(H地区)



図 7.1.3-13(2) 無障害物帯の植生状況の推移(H地区)

(4) N-1 地区

a) N-1(a) 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

N-1(a) 地区のマント群落・ソデ群落の生育・形成状況を表 7.1.3-15、図 7.1.3-14 に示した。

無障害物帯縁のマント群落・ソデ群落については、評価図書に示す環境保全措置のとおり、既存のマント群落・ソデ群落が形成されていた東側を除く 3 地点で、林縁部においてリュウキュウチクの植栽を実施し、マント群落・ソデ群落の早期形成を促した。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、低木層が高さ 2.5m、植被率 55～60%、出現種 3 種、草本層が高さ 0.8m、植被率 15～20%、出現種 22～29 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 2.5m、植被率 60%、出現種 3 種、草本層が高さ 0.8m、植被率 20%、出現種 28 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

南側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、高木層が高さ 8.5m、植被率 20%、出現種 1 種、亜高木層が高さ 6.0m、植被率が 15～20%、出現種 4～5 種、低木層が高さ 2.5m、植被率 25～30%、出現種 3～4 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 50～60%、出現種 34～39 種であった。今年度調査においては、高木層が消失し、亜高木層が高さ 6.0m、植被率が 25%、出現種 4 種、低木層が高さ 2.5m、植被率 40%、出現種 5 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 60%、出現種 33 種であった。過年度から比較すると、高木層のスタジイが枝折れにより亜高木層へ移行し、高木層が消失した。マント群落・ソデ群落を形成する低木層と草本層では、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

東側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 20%、出現種 2 種、低木層が高さ 2.5m、植被率 40～50%、出現種 2～3 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 15～25%、出現種 18～24 種であった。今年度調査においては、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 20%、出現種 2 種、低木層が高さ 2.5m、植被率 50%、出現種 1 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 25%、出現種 19 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被率は増加傾向であり、継続して既存のマント群落・ソデ群落が形成されていた。

西側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、低木層が高さ 2.0～2.5m、植被率 40～45%、出現種 4～5 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 40～50%、出現種 36～39 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 2.5m、植被率 45%、出現種 4 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 40%、出現種 31 種であった。過年度と比較すると、

低木層のリュウキュウチクや草本層でつる性植物のハナガサノキ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

以上より、N-1(a)地区では、マント群落・ソデ群落が形成されていると考えられたことから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-15(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側														南側																	
	H28年度		H29年度				H30年度				R1年度				H2年度		H29年度				H30年度				R1年度				H2年度			
	秋季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
傾斜の向き	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	
調査区面積 (m²)	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	-	
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	-		
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-		
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0		
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75		
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5		
低木層(S)の植被率 (%)	50	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60		
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	10	8	8	8	5	5	5	4	3	3	4	4	5		
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
草本層(H)の植被率 (%)	10	10	10	10	10	15	15	15	15	20	20	20	20	50	50	50	40	40	50	50	50	50	50	50	50	60	60	60	60			
草本層(H)の出現数 (種)	17	19	17	17	19	19	16	19	22	26	29	29	28	21	26	28	27	35	31	28	30	35	34	39	38	33						
出現種数 (種)	19	20	18	18	21	20	18	21	24	28	31	30	29	26	29	31	29	36	33	30	32	37	35	41	38	33						
高木層(T1)																																
T1.1 スダジイ(イタジイ)																		2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	
亜高木層(T2)																																
T2.1 アデク																		1	1	1	1	+	+	1	1	1	1	1	1	1	1	
T2.2 ヒメズリハ																		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
T2.3 イスノキ																		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
T2.4 イヌマキ																		1	1	1	1	+	+	1	1	1	1	1	1	1	+	
T2.5 タイミンタチバナ																		3	3	3	3	+	+									
T2.6 ハナガサノキ																																
T2.7 ギイマ																		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
T2.8 コバンモチ																		1	1	1	1	+										
T2.9 ギョクシンカ																																
T2.10 スダジイ(イタジイ)																																
T2.11 モクレシ																																
T2.12 フカノキ																																
低木層(S)																																
S.1 リュウキュウチク (移植)	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
S.2 リュウキュウチク																																
S.3 アデク	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	+	+	+	+											
S.4 イスノキ																			2	2	2	2	+	+	1	1	1	1	1	1		
S.5 シバヤブニッケイ	+	+	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1															
S.6 ムッチャガラ																			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
S.7 タイミンタチバナ																																
S.8 フカノキ																																
S.9 シラタマカズラ																																
S.10 ヒメズリハ																																
S.11 ヒサカキ																																
S.12 コバンモチ																																
S.13 ギョクシンカ																																
S.14 ヤマグワ																																
S.15 リュウキュウアリドウシ																																
S.16 アカメガシワ																																
S.17 ヤマヒハツ	1	1																														
S.18 スダジイ(イタジイ)																																
S.19 ハナガサノキ																																
S.20 リュウキュウモチ																																
S.21 インドシャリンバイ																																
S.22 カクレミノ																																
S.23 シママサオノキ																																
S.24 ササバサンキライ																																
S.25 アオバナハイノキ																																
S.26 トキワカモメツル																																
草本層(H)																																
H.1 ササクサ	+	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	+	+	+	+	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
H.2 シラタマカズラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
H.3 タイミンタチバナ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
H.4 イスノキ																																
H.5 ササバサンキライ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
H.6 オキナワサルトリイバラ																																

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度—5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度—5: かべツ状に分布、4: かべツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-15(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側												南側											
	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		H28年度	H29年度		H30年度		R1年度		H29年度						
	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季				
傾斜の向き	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W				
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40				
調査区面積 (m ²)	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3				
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5				
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	25	25	25	20	20				
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1				
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0				
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75	75	70	20	10	10				
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7	7	7	5	5				
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5				
低木層(S)の植被率 (%)	50	60	60	60	60	60	60	60	60	55	55	55	60	40	40	40	10	10	20	20				
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	10	8	8	8	5	5	4				
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				
草本層(H)の植被率 (%)	10	10	10	10	10	15	15	15	15	20	20	20	20	50	50	50	40	40	50	50				
草本層(H)の出現数 (種)	17	19	17	17	19	19	16	19	22	26	29	29	28	21	26	28	27	35	31	28				
出現種数 (種)	19	20	18	18	21	20	18	21	24	28	31	30	29	26	29	31	29	36	33	30				
草本層(H)																								
H.7 ムッチャガラ	+	+	+	+	+		+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.8 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.9 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+									1-2	+	+	+	+	+	+				
H.10 シンエダウチホングウシダ	+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.11 クロガヤ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.12 オオバナハイノキ(ソウゼンハイノキ)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.13 イヌマキ	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.14 ハナガサノキ										+					+	+	+	+	+	+				
H.15 ヤマヒハツ		+					+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.16 アカメガシフ					+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.17 アデク	+	+	+	+	+	+									+	+	+	+	+	+				
H.18 シシアクチ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.19 カクレミノ															+	+	+	+	+	+				
H.20 コバンモチ															+	+	+	+	+	+				
H.21 シマミサオノキ															+	+	+	+	+	+				
H.22 シロノセンダングサ							+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.23 イジュ	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+2	+2	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.24 オウクラマゴケ(ミドリカタヒ)	1-2	+2	+2	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.25 インドシヤリンバイ							+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.26 ヒョウタンカズラ															+	+	+	+	+	+				
H.27 ヒメズリハ															+	+	+	+	+	+				
H.28 シロミミズ	+														+	+	+	+	+	+				
H.29 リュウキュウチク															+2	+								
H.30 ミミズバイ															+	+	+	+	+	+				
H.31 リュウキュウチク (移植)															3-3	3-3	3-3	3-3	2-3	2-3				
H.32 ヤンバルミミズバイ	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
H.33 ヒサカキ															+	+	+	+	+	+				
H.34 モクレイシ																								
H.35 タブノキ																								
H.36 フカノキ																								
H.37 マンリョウ																								
H.38 ヒサカキサザンカ																								
H.39 ハゼノキ							+	+																
H.40 ホラシノブ																								
H.41 トキワカモメヅル																								
H.42 リュウキュウアリドウシ															1-2	1-2	1-2	+2	+	+				
H.43 コバナヒメハギ																								
H.44 リュウキュウモチ																								
H.45 オオアレチノギク																								
H.46 オニタビラコ																								
H.47 ケホシダ																								
H.48 ツグモチ																								
H.49 ノボタン																								
H.50 チガヤ																								
H.51 ナガバカニクサ																								
H.52 モエンマンダ																								
H.53 ギョクシンカ																								

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+ : 被度が1%以下
 群度→5: かへつ状に分布、4: かへつ状に穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-15(3) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側												南側											
	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度					
	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季	秋季	夏季		
傾斜の向き	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W			
傾斜角度 (°)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40			
調査区面積 (m ²)	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3	2×3			
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5			
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	25	25	25	20	20	20	20			
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1			
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0			
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75	75	70	20	10	10	10	20			
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7	7	7	5	5	5	5			
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5			
低木層(S)の植被率 (%)	50	60	60	60	60	60	60	60	60	55	55	55	60	40	40	40	10	10	20	20				
低木層(S)の出現数 (種)	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	10	8	8	5	5	4	3	3				
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				
草本層(H)の植被率 (%)	10	10	10	10	10	15	15	15	15	20	20	20	20	50	50	50	40	40	50	50				
草本層(H)の出現数 (種)	17	19	17	17	19	19	16	19	22	26	29	29	28	21	26	28	27	35	31	28				
出現種数 (種)	19	20	18	18	21	20	18	21	24	28	31	30	29	26	29	31	29	36	33	30				
草本層(H)																								
H.54																								
H.55 ヤマモモ																								
H.56 エゴノキ		+								+	+	+	+											
H.57 サザンカ							+	+											+					
H.58 オオバギ																								
H.59 ヤマグワ																					+			
H.60 ヒカゲヘゴ																								
H.61 リュウキュウテイカカズラ																								
H.62 タシロリミノキ																								
H.63 イヌガシ																								
H.64 ヤハズソウ										+	+-2	+-2												
H.65 ススキ																								
H.66 ゴンズイ																								
H.67 モッコク																								
H.68 マツバゼリ																					+			
H.69 テチゴサ																					+			
H.70 ヒメブタナ																					+			
H.71 ホウキギク																					+			
H.72 ヤンバルアブキ																					+			
H.73 シロダモ																					+			
H.74 クロミノオキナフスズメウリ																								
H.75 タチスズメヒエ																								
H.76 ノアサガオ																								
H.77 ハスノハズラ																					+			
H.78 セイヨウタンポポ																					+			
H.79 キバナニワゼキショウ																					+			
H.80 ギイマ																								
H.81 ダンドボロギク																								
H.82 シバ																								
H.83 アキノノヂシ																								
H.84 タイワンハチジョウナ																								

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-15(5) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	東側														西側														出現回数
	H28年度		H29年度		H30年度				H1年度		H2年度		H28年度		H29年度		H30年度				H1年度		H2年度						
	初春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬					
	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W					
傾斜の向き																													
傾斜角度 (°)																													
調査区面積 (m ²)	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4		
高木層(T1)の高さ (m)																													
高木層(T1)の植被率 (%)																													
高木層(T1)の出現数 (種)																													
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	25	25	25	25	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5		
低木層(S)の植被率 (%)	80	50	40	30	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	25	25	25	25	30	30	30	30	40	40	45	45	45		
低木層(S)の出現数 (種)	11	7	8	3	3	4	3	3	3	2	2	2	2	1	3	3	2	2	0	3	4	4	4	4	5	4	4		
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.7	0.7	0.7	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
草本層(H)の植被率 (%)	30	10	10	10	10	15	15	15	15	20	25	25	25	25	20	20	20	30	40	40	40	40	45	50	50	40	40		
草本層(H)の出現数 (種)	21	19	17	19	18	21	21	19	18	24	22	24	19	20	21	27	27	32	37	35	34	39	36	38	38	31	31		
出現種数 (種)	25	22	19	20	19	22	21	20	19	25	23	25	20	24	23	29	29	35	39	38	37	41	37	39	39	32	32		
草本層(H)																													
H. 7 ムツチャガラ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	45	
H. 8 シバヤブニッケイ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	44	
H. 9 スダジイ(イタジイ)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	42	
H. 10 シンエダウチホングウシダ															+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	39	
H. 11 クロガヤ																												37	
H. 12 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)	+														+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	36	
H. 13 イヌマキ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	34	
H. 14 ハナガサノキ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	1-2	1-2	1-2	34
H. 15 ヤマヒハツ																												33	
H. 16 アカメガシワ																												33	
H. 17 アデク																												32	
H. 18 シシアクチ	+	+																										31	
H. 19 カクレミノ	+2	+	+	+	+	+	+	+	+2	+2	+2	+2	+2	+2														30	
H. 20 コバンモチ	1-2	+	+	+	+	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2														29	
H. 21 シマミサオノキ	+																											29	
H. 22 シロノセンダングサ																												28	
H. 23 イジュ																												28	
H. 24 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)																												25	
H. 25 インドシヤリンバイ	+	+	+																									25	
H. 26 ヒョウタンカズラ																												22	
H. 27 ヒメユズリハ	+2	+2	+2	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	21	
H. 28 シロミズ																												19	
H. 29 リュウキュウチク	+	+	+	+	+	+2	+2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2	1-2														19	
H. 30 ミズバイ																												19	
H. 31 リュウキュウチク (移植)																												18	
H. 32 ヤンバルミズバイ																												15	
H. 33 ヒサカキ																												15	
H. 34 モクレイシ																												15	
H. 35 タブノキ																												14	
H. 36 フカノキ																												13	
H. 37 マンリョウ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	13	
H. 38 ヒサカキサザンカ																												13	
H. 39 ハゼノキ																												12	
H. 40 ホラシノブ																												12	
H. 41 トキワカモメヅル																												12	
H. 42 リュウキュウアリドウシ																												10	
H. 43 コバナヒメハギ																												9	
H. 44 リュウキュウモチ																												9	
H. 45 オオアレチノギク																												9	
H. 46 オニタビラコ																												9	
H. 47 ケホシダ																												9	
H. 48 ツグモチ																												8	
H. 49 ノボタン																												8	
H. 50 チガヤ																												8	
H. 51 ナガバカニクサ																												8	
H. 52 モエジマシダ																												8	
H. 53 ギョクシンカ						1-1	1-1	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	7	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度-5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度-5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-15(6) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	東側														西側														出現回数
	H28年度		H29年度		H30年度		H1年度		H2年度		H28年度		H29年度		H30年度		H1年度		H2年度										
	初春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬					
傾斜の向き																													
傾斜角度 (°)	-																												
調査区面積 (m ²)	1.3×4	1.3×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1.3×4	1.5×4	1.5×4	1.3×4	1.3×4	1.5×4	1.5×4	1.5×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4	1×4					
高木層(T1)の高さ (m)	-																												
高木層(T1)の植被率 (%)	-																												
高木層(T1)の出現数 (種)	-																												
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
亜高木層(T2)の植被率 (%)	25	25	25	25	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
亜高木層(T2)の出現数 (種)	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5					
低木層(S)の植被率 (%)	80	50	40	30	40	40	40	40	40	40	45	50	50	25	25	25	25	30	30	30	40	40	45	45					
低木層(S)の出現数 (種)	11	7	8	3	3	4	3	3	3	2	2	2	1	3	3	2	2	3	4	4	4	4	5	4					
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.7	0.7	0.7	0.5	0.5	0.8	1.0	1.0	1.0					
草本層(H)の植被率 (%)	30	10	10	10	10	15	15	15	15	20	25	25	25	25	20	20	20	30	40	40	40	40	45	50					
草本層(H)の出現数 (種)	21	19	17	19	18	21	21	19	18	24	22	24	19	20	21	27	27	32	37	35	34	39	36	38					
出現種数 (種)	25	22	19	20	19	22	21	20	19	25	23	25	20	24	23	29	29	35	39	38	37	41	37	39					
草本層(H)																													
H. 54	+	+	-	-	-	+																		5					
H. 55 ヤマモモ										+	+														6				
H. 56 エゴノキ																									5				
H. 57 サザンカ																									5				
H. 58 オオバギ																									5				
H. 59 ヤマグワ																									5				
H. 60 ヒカゲヘゴ																									5				
H. 61 リュウキュウテイカズラ																									4				
H. 62 タシロリミノキ																									4				
H. 63 イヌガシ																									4				
H. 64 ヤハズソウ																									3				
H. 65 ススキ																									3				
H. 66 ゴンズイ																									2				
H. 67 モッコク																									2				
H. 68 マツバゼリ																									2				
H. 69 チチゴグサ																									2				
H. 70 ヒメバナ																									2				
H. 71 ホウキギク																									2				
H. 72 ヤンバルアワブキ																									2				
H. 73 シロガモ																									2				
H. 74 クロミノオキナワズメウリ																									2				
H. 75 タチスズメノヒエ																									2				
H. 76 ノアサガオ																									1				
H. 77 ハスノハカズラ																									1				
H. 78 セイウタンボボ																									1				
H. 79 キバナニワゼキショウ																									1				
H. 80 ギイマ																									1				
H. 81 ダンドボロギク																									1				
H. 82 シバ																									1				
H. 83 アキノゲシ																									1				
H. 84 タイワンハチジョウナ																									1				

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群 度→5: かべつ状に分布、4: かべつ状に穴が開いた状態、3: 大きな斑を形成あるいはまだら状、2: 斑状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布



図 7.1.3-14(1) マント群落・ソデ群落の植生状況の推移(N-1(a)地区)

【N-1(a)地区：東側】



平成 28 年度秋季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

【N-1(a)地区：西側】



平成 28 年度秋季（初回）



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度（令和元年度）冬季



令和 2 年度春季（最終調査）

図 7.1.3-14(2) マント群落・ソデ群落の植生状況の推移(N-1(a)地区)

(b) 無障害物帯形成地の植生

N-1(a)地区の無障害物帯の生育・形成状況を表 7.1.3-16、図 7.1.3-15 に示した。

無障害物帯縁の植生の推移をみると、無障害物帯は樹木の伐採が行われた後、埋土種子からの発芽や周辺からの草本類の侵入、赤土対策による種子吹付芝や張芝による植被率の増加がみられ、植生の回復が進んでいることを確認した。

評価図書においては、無障害物帯は早期緑化を行うこととしている。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.6m、植被率100%、出現種3~7種であった。今年度調査においては、草本層が高さ0.6m、植被率100%、出現種6種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は100%で維持されていた。

南側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.6~1.0m、植被率85~95%、出現種11~20種であった。今年度調査においては、草本層が高さ1.0m、植被率95%、出現種21種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率に目立った増減は無く、継続して植生の回復が確認された。

東側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.2m、植被率90~100%、出現種4~6種であった。今年度調査においては、草本層が高さ0.2m、植被率95%、出現種10種であった。過年度と比較すると、草本層の植被率に目立った増減は無く、継続して植生の回復が確認された。

以上のことから、無障害物帯の植生は回復しており、過年度から継続的に高い植被率が維持されていると考えられたことから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-16(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 無障害物帯	北側												南側												
	H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			
	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	
傾斜の向き	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	W	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	SW	
傾斜角度 (°)	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
調査区面積 (m ²)	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	2×2	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.3	0.6	0.6	0.6	1.0	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	100	90	90	100	100	100	100	100	100	100	100	100	90	50	60	80	75	75	80	85	95	95	95	95	
出現種数 (種)	8	9	12	10	9	9	9	7	3	4	5	6	6	6	15	16	13	16	21	20	11	17	15	21	
草本層(H)																									
H.1 シバ	3・4	3・3	3・3	3・3									5・5	3・4	3・4	5・5	4・4	4・4	4・5	5・5	5・5	5・5	4・4	1・2	
H.2 チガヤ				1・2	1・2	4・4	4・4	5・5	5・5	5・5	5・5					+	+2	+2	1・2	1・2	2・3	2・3	3・3	4・4	
H.3 シロセンダングサ				+2	2・2	2・3	2・3	3・3	2・2	2・2	2・2	2・2							+	+			1・2	1・2	2・2
H.4 ホシダ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				+	+						+	+	+
H.5 ホラシノブ		+			+	+	+					+				+	+	+	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2
H.6 オオアブラガヤ	3・4	4・4	4・4	4・4	4・4	2・3	2・3	+2					+	+	+	+	+	+							
H.7 リュウキュウチク																+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
H.8 ベニバナボロギク	1・2	+	1・2	+												+	+2	+2	+	+	+2	+2			
H.9 ヤマヒハツ						+		+											+	+		+	+	+	+
H.10 オキナワサルトリイバラ					+	+	+					+	+			+	+					+		+	+
H.11 キバナニワゼキショウ								+											+	+2	+2				+
H.12 オニタビラコ																+	+		+	+	+	+	+	+	+
H.13 ヒナギキョウ				+	+									+			2・2	+2	+	+2	+2				
H.14 ホウキギク					+													+2	+	+	+		+	+	+
H.15 ヒリュウシダ																		+	+	+	+	+	+	+	+2
H.16 オオアレチノギク																	+	+2	+2	+2	+2			+	+
H.17 ヤハズソウ																						+	+	+	
H.18 ススキ	+		+		3・3	1・2	1・2				1・1														
H.19 ニワゼキショウ		+	+	+																					
H.20 ササクサ		+					+	+					+		+	+									
H.21 チチコグサ																+			+	+	1・2	+	+		
H.22 アキノゲシ																	+	+	+	+	+		+		
H.23 ハマスゲ																									
H.24 ヒカゲヘゴ	+				+	+							1・2												+
H.25 ヒメブタナ				+												1・2			+	+2	+2				
H.26 ダンドボロギク																+	+			+					
H.27 コバナヒメハギ																				+					+
H.28 ハマサルトリイバラ	+	+2		+																					
H.29 コマツヨイグサ																1・2		+			+				
H.30 クロガヤ																		+		+	+				
H.31 アカメガシワ																							+	+	+
H.32 ヒサカキ																							+	+	+
H.33 アデク	+		+																						
H.34 インドシャリンバイ		+					+																		
H.35 ワラビ				+	+																				
H.36 ギョウギシバ				+													+								
H.37 イスノキ																+	+								
H.38 キキョウソウ																		+				+			
H.39 クグテンツキ																			+	+					
H.40 インチンナズナ																						+			
H.41 イジロ																						+			+
H.42 ホルトノキ																							+		+
H.43 ツゲモチ	+																								
H.44 ヒメオニササガヤ													1・2												
H.45 																		+							
H.46 インドコメナ																					+				
H.47 アラゲヒメワラビ																							+		
H.48 カタバミ																									+
H.49 ハハコグサ																									+
H.50 テクシキスラン																									+
H.51 コメツバウマコヤシ																									+
H.52 シナガワハギ																									+

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツト穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布



図 7.1.3-15 無障害物帯の植生状況の推移 (N-1(a)地区)

b) N-1(b) 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

N-1(b) 地区のマント群落・ソデ群落の生育・形成状況を表 7.1.3-17、図 7.1.3-16 に示した。

無障害物帯縁のマント群落・ソデ群落については、評価図書に示す環境保全措置のとおり、林縁部においてリュウキュウチクの植栽を実施し、マント群落・ソデ群落の早期形成を促した。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、高木層が高さ 8.0m、植被率 25～30%、出現種 3 種、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 10%、出現種 1 種、低木層が高さ 3.0m、植被率 40～60%、出現種 4 種、草本層が高さ 1.5m、植被率 30～40%、出現種 31～32 種であった。今年度調査においては、高木層が高さ 8.0m、植被率 25%、出現種 3 種、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 10%、出現種 1 種、低木層が高さ 3.0m、植被率 70%、出現種 5 種、草本層が高さ 1.5m、植被率 40%、出現種 31 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

南側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、亜高木層が高さ 4.0m、植被率が 10%、出現種 1 種、低木層が高さ 2.0m、植被率 25～35%、出現種 2 種、草本層が高さ 0.5m、植被率 5～15%、出現種 19～25 種であった。今年度調査においては、亜高木層が高さ 4.0m、植被率が 10%、出現種 1 種、低木層が高さ 2.0m、植被率 35%、出現種 2 種、草本層が高さ 0.5m、植被率 15%、出現種 22 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のリュウキュウチク等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が概ね形成されていた。

東側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、低木層が高さ 2.5m、植被率 30～35%、出現種 3 種、草本層が高さ 0.5m、植被率 15～30%、出現種 24～25 種であった。今年度調査においては、低木層が高さ 2.5m、植被率 35%、出現種 3 種、草本層が高さ 0.7m、植被率 30%、出現種 24 種であった。過年度から比較すると、低木層のイスノキや草本層のタイミンタチバナ等、植被率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

西側は、過年度の調査(平成 31 年度)において、高木層が高さ 8.0m、植被率 10%、出現種 1 種、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 15%、出現種 2～3 種、低木層が高さ 2.0m、植被率 40～50%、出現種 3 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 20～35%、出現種 36～39 種であった。今年度調査においては、高木層が高さ 8.0m、植被率 5%、出現種 1 種、亜高木層が高さ 5.0m、植被率が 15%、出現種 3 種、低木層が高さ 2.0m、植被率 50%、出現種 3 種、草本層が高さ 1.0m、植被率 35%、出現種 36 種であった。過年度から比較すると、低木層のリュウキュウチクや草本層のササクサ等、植被

率や出現種は増加傾向であり、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

以上より、N-1(b)地区ではマント群落・ソデ群落が形成されたと考えられることから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-17(5) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 マント群落・ソデ群落形成地	東側														西側														出現回数					
	H29年度				H30年度				R1年度				R2年度		H29年度				H30年度				R1年度		R2年度									
	秋季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	H29年度	H30年度	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季								
傾斜の向き	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N								
傾斜角度 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5								
調査区面積 (m ²)	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	15×15	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4								
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0									
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10									
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1									
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0									
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	15	15	15	15	15	15	15									
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	3	3									
低木層(S)の高さ (m)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0									
低木層(S)の植被率 (%)	45	40	40	40	40	45	45	30	30	35	35	35	35	35	35	35	35	40	40	40	40	45	50	50	50									
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3									
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0									
草本層(H)の植被率 (%)	15	15	15	15	15	20	20	15	15	20	30	30	30	10	10	10	10	10	20	20	20	20	30	35	35									
草本層(H)の出現数 (種)	13	16	13	15	17	18	18	20	24	25	25	24	24	15	14	16	18	23	29	30	34	36	39	38	37									
出現種数 (種)	16	18	15	16	19	21	21	22	25	26	26	25	25	18	17	22	20	23	30	32	36	37	40	40	39									
草本層(H)																																		
H.24 シロノセンダングサ																											+ +2	+2	+2	+2	+2	21		
H.25 シバヤブニッケイ																																		20
H.26 ヒサカキ																																		20
H.27 ハゼノキ																																		17
H.28 シミサオノキ																																		15
H.29 ムツヤガラ																																		15
H.30 マンリョウ																																		15
H.31 オニタビラコ																																		14
H.32 ホラシノブ																																		14
H.33 ヒメズリハ																																		13
H.34 ヒメズリハ																																		13
H.35 シロミズ																																		13
H.36 シロダモ																																		12
H.37 フカノキ																																		12
H.38 ツゲモチ																																		12
H.39 ヤハズソウ																																		12
H.40 オオバギ																																		11
H.41 コバナヒメハギ																																		11
H.42 ナカハラクロキ																																		11
H.43 クロバイ																																		10
H.44 エゴノキ																																		9
H.45 ヤマグワ																																		9
H.46 クロヘゴ																																		9
H.47 ヤンバルミズバヤ																																		8
H.48 キキョウラン																																		8
H.49 ベニバナボロギク																																		7
H.50 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)																																		7
H.51 キバナニワゼキショウ																																		6
H.52 オオアブラガヤ																																		6
H.53 シバ																																		5
H.54 ギョクシンカ																																		5
H.55 モッコク																																		4
H.56 ギイマ																																		3
H.57 ウスベニニガナ																																		3
H.58 ホシダ																																		3
H.59 オオアレチノギク																																		3
H.60 ヒメイタビ																																		3
H.61 アオノクマタケラン																																		3
H.62 クチナン																																		3
H.63 チチコグサモドキ																																		2
H.64 マツバゼリ																																		2
H.65 ケホシダ																																		2
H.66 ヒサカキサザンカ																																		2
H.67 ヒメフタナ																																		2
H.68 モクレイシ																																		2
H.69 ヤマモモ																																		1
H.70 オキナワスズメウリ																																		1
H.71 ヒナギキョウ																																		1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベト状に分布、4: カベトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-17(6) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 マント群落・ソデ群落形成地	夏側												西側												出現回数						
	H28年度		H29年度				H30年度				R1年度				R2年度		H29年度		H30年度				R1年度				R2年度				
	秋季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季		春季	夏季	秋季	冬季	春季	
傾斜の向き	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N		
傾斜角度 (°)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
調査区面積 (m ²)	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	13×13	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4		
高木層(T1)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0		
高木層(T1)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	5		
高木層(T1)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10	10	10	10	15	15	15	15	15	15	15	15		
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3		
低木層(S)の高さ (m)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
低木層(S)の植被率 (%)	45	45	40	40	40	45	45	30	30	30	35	35	35	35	35	35	35	40	40	40	40	40	40	40	45	50	50	50			
低木層(S)の出現数 (種)	4	4	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	1	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
草本層(H)の植被率 (%)	15	15	15	15	15	20	20	15	15	20	20	20	20	30	30	10	10	10	10	10	20	20	20	20	30	35	35	35			
草本層(H)の出現数 (種)	12	10	13	15	17	19	19	20	24	25	25	24	24	15	14	19	18	23	29	30	34	36	39	38	37	38	37	38			
出現種数 (種)	18	18	15	16	19	21	21	22	25	26	26	25	25	18	17	22	20	23	30	32	36	37	40	40	39	38	38	38			
草本層(H)																															
H.72 テリミノヌホオズキ																														1	
H.73 ハルノゲシ(ノゲシ)																														1	
H.74 カタバミ																														1	
H.75 クロミノキナワズメウリ	+																												1		
H.76 ニワゼキショウ																													1		
H.77 ヤンバルアワブキ																													1		
H.78 ススキ																													1		

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 斑状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

【N-1 (b) 地区：北側】



平成 28 年度秋季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

【N-1 (b) 地区：南側】



平成 28 年度秋季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

図 7.1.3-16 (1) マント群落・ソデ群落の植生状況の推移 (N-1 (b) 地区)

【N-1 (b) 地区：東側】



平成 28 年度秋季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

【N-1 (b) 地区：西側】



平成 28 年度秋季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

図 7.1.3-16(2) マント群落・ソデ群落の植生状況の推移 (N-1 (b) 地区)

(b) 無障害物帯形成地の植生

N-1(b)地区の無障害物帯の生育・形成状況を表 7.1.3-18、図 7.1.3-17 に示した。

無障害物帯縁の植生の推移をみると、無障害物帯は樹木の伐採が行われた後、埋土種子からの発芽や周辺からの草本類の侵入、赤土対策による種子吹付シバや張芝による植被率の増加がみられ、植生の回復が進んでいることを確認した。

評価図書においては、無障害物帯は早期緑化を行うこととしている。

当該着陸帯における各調査地点の植生状況について、以下にまとめた。

北側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.5~1.0m、植被率45~60%、出現種9~15種であった。今年度調査においては、草本層が高さ1.5m、植被率45%、出現種14種であった。過年度から比較すると、何度かイノシシによる掘り返しで、草本層の植被率が低下したが、回復傾向であった。

南側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.3~0.8m、植被率100%、出現種4~7種であった。今年度調査においては、草本層が高さ0.4m、植被率100%、出現種7種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は100%で維持されていた。

東側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.5m、植被率100%、出現種4~10種であった。今年度調査においては、草本層が高さ0.5m、植被率100%、出現種5種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は100%で維持されていた。

西側は、過年度の調査(平成31年度)において、草本層が高さ0.7~0.8m、植被率100%、出現種4~8種であった。今年度調査においては、草本層が高さ0.7m、植被率90%、出現種5種であった。過年度から比較すると、草本層の植被率は僅かに減少したものの、継続して高い植被率を維持していた。

以上のことから、無障害物帯の植生は、概ね回復しており、一部イノシシによる掘り返しで植被率は減少しているものの、赤土等の流出は無く、過年度から継続的に高い植被率が維持されていることから、春季を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.3-18(1) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 無障害物帯	北側												南側											
	H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			H29年度			H30年度			R1年度			R2年度		
	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季
傾斜の向き	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S
傾斜角度	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	
調査区面積	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	
基本層(H)の高さ	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.5	1.0	1.0	1.0	1.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.5	0.6	0.4	
草本層(H)の植被率	75	80	90	95	70	45	50	50	60	60	45	45	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
出現種数	6	6	6	8	10	3	13	15	9	11	10	14	1	1	1	1	2	2	4	4	4	6	7	
草本層(H)																								
H.1 シバ	4-4	5-5	5-5	5-5	4-4	4-4	3-3	3-3	3-3	3-3	1-2	1-1	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	
H.2 シロノセンダングサ							1-2	1-2	4-4	4-4	3-3	2-3					1-1	1-1	1-1	1-1	1-2	2-2	2-2	
H.3 オオアブラガヤ																								
H.4 ハマサルトリイバラ								+	+	+	+													
H.5 オオアレチノギク					+	+	+			+												+	+	
H.6 ベニバナボロギク				+	+	+	+																	
H.7 ヤハズソウ									+												+	3-3	3-3	
H.8 ホシダ	+	+	+	+				+	+	+	+	+	1-1											
H.9 ヒサカキ							+	+	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1											
H.10 ハマズグ																								
H.11 ギョウギシバ																								
H.12 キバナニワゼキショウ				+	+	+		+	+			+	+											
H.13 リュウキュウチク								+	+	+	1-2	1-2	1-2											
H.14 コバナヒメハギ																				+	+	1-2	1-2	
H.15 ササクサ	+	+	+	+	+																			
H.16 ツゲモチ									+	+			+	+										
H.17 タチスズメノヒエ						+					+	+												
H.18 ホウキギク								+	+				+										+	
H.19 アカメガシフ												+	+	+	+									
H.20 オニタビラコ																							+	
H.21 カタバミ																							+	
H.22 ウスベニガナ																						+	+	
H.23 リュウキュウモチ		+	+	+	+																			
H.24 コマツヨイグサ																								
H.25 ダンドボロギク					+			+	+															
H.26 インチンナズナ								+	+				+											
H.27 ヒメズリハ										+	+	+												
H.28 ホラシノブ												+	+	+										
H.29 イスノキ												+	+	+										
H.30 ホルトノキ	+	+																						
H.31 チチコグサ								+	+															
H.32 コメツブウマゴヤシ																								
H.33 ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)																					+			
H.34 アメリカゴウカン(ハイクサネム)																								
H.35 アゼガヤツリ																								
H.36 ヒナギキョウ																								
H.37 ワラビ	+	+																						
H.38 ヒカゲヘゴ	+																							
H.39 コウライシバ			+																					
H.40 ヤマヒハツ					+																			
H.41 マツバゼリ									+															
H.42 チクシキヌラン																							+	
H.43 ハイニシキソウ																								
H.44 タイヌビエ																								
H.45 シロツメクサ																								
H.46 ススキ																								

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が1%未満、+: 被度が1%以下
 群 度→5: かべつ状に分布、4: かべつに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 7.1.3-18(2) 無障害物帯形成地の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 無障害物帯	東側												西側												出現回数		
	H29年度			H30年度			R1年度			R2年度			H29年度			H30年度			R1年度			R2年度					
	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季	夏季	秋季	冬季			
傾斜の向き	-																										
傾斜角度 (°)	-																										
調査区面積 (m ²)	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1	2×1		
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	95	95	95	95	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	95	95	100	100	100	100	100	100	100	100	100	90	
出現種数 (種)	5	4	4	8	9	8	11	10	6	7	4	5	5	5	5	7	6	6	6	8	5	4	4	4	5		
草本層(H)																											
H.1 シバ	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	5-5	4-5	4-4	2-2		5-5	5-5	4-4	5-5	5-5	5-5	5-5	4-5	4-5	2-2	1-2	4-4	4-4	47	
H.2 シロノセウダングサ	+			+	+	+	+2	+2	+2	1-2	+2	1-1				+2	2-2	2-2	2-2	2-2	4-4	4-4	3-4	4-4	3-4	33	
H.3 オオアブラガヤ		+	+	1-1	2-2	2-2	2-3	3-3	4-4	4-4	5-5	5-5	1-2	2-2	2-2	3-3	3-4	3-4	3-4	3-4	3-4	3-3	3-3	3-4	3-4	23	
H.4 ハマサルトリイバラ														+	+	+	+2	1-2	+2	+2	+	+	+2	+	+	15	
H.5 オオアレチノギク				+	+2	+	+2	+2	+2	+2	+2															14	
H.6 ベニバナポロギク			+	+	+		+					+			+	+	+									12	
H.7 ヤハズソウ				+	1-1	1-1		+	1-2	+2																12	
H.8 ホシダ																										10	
H.9 ヒサカキ																										8	
H.10 ハマダマ	1-2	2-2	1-2	2-2	2-2	2-2	1-2	1-2																		8	
H.11 ギョウギシバ													+	+	3-3	2-2	+2	+2	+	+						8	
H.12 キバナニワゼキショウ																							+			7	
H.13 リュウキュウチク																										7	
H.14 コバナヒメハギ					+																					7	
H.15 ササクサ																										5	
H.16 ツゲモチ																										6	
H.17 タチスズメノヒエ									+														+			5	
H.18 ホウキギク																										5	
H.19 アカメガシワ		+																								5	
H.20 オニタビラコ						+	+	+				+														5	
H.21 カタバミ												+							+	+	+					5	
H.22 ウスベニガナ								+		+																5	
H.23 リュウキュウモチ																										4	
H.24 コマツヨイグサ				+		+2	+	+2																		4	
H.25 ダンドポロギク					+																					3	
H.26 インチンナズナ																										3	
H.27 ヒメユズリハ																										3	
H.28 ホラシノブ																										3	
H.29 イスノキ																										3	
H.30 ホルトノキ																										2	
H.31 チチコグサ																										2	
H.32 コメツブウマゴヤシ								+																		2	
H.33 ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)								+	+																	2	
H.34 アメリカゴウカン(ハイクサネム)									+	+																2	
H.35 アゼガヤツリ													+	+												2	
H.36 ヒナギキョウ																	+					+				2	
H.37 ワラビ																										1	
H.38 ヒカゲヘゴ																										1	
H.39 コウライシバ																										1	
H.40 ヤマヒハツ																										1	
H.41 マツバゼリ																										1	
H.42 チクシキヌラン																										1	
H.43 ハイニシキソウ		+																								1	
H.44 タイヌビエ		+																								1	
H.45 シロツメクサ													+													1	
H.46 ススキ																									*	1	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+ : 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

【N-1 (b) 地区：北側】



平成 29 年度夏季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

【N-1 (b) 地区：南側】



平成 29 年度夏季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

図 7.1.3-17(1) 無障害物帯の植生状況の推移(N-1 (b) 地区)

【N-1 (b) 地区：東側】



平成 29 年度夏季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

【N-1 (b) 地区：西側】



平成 29 年度夏季 (初回)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (最終調査)

図 7.1.3-17(2) 無障害物帯の植生状況の推移(N-1 (b) 地区)

4) 工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況

工事による副次的影響を復元した箇所の植生の回復状況を図 7.1.3-18 に示した。

G 直近の作業ヤードについては、土壌流出防止対策のため、チップ剤によるマルチングが行われており、高さ 0.7m 程度の草本が僅かに生育していたが、過年度においては植生の復元は不十分であった。

植生の復元が進まないことから、令和 2 年 1 月に近隣で行われている別事業の工事から発生した残土を投入、敷き均しを行い、埋土種子による植生の復元を促した。さらに令和 2 年 6 月、8 月、9 月に周辺地から採取したクロガヤ、チガヤ、ススキを植栽した。

植栽種は、一部は活着に至らなかったものの、活着した株からは新芽、埋土種子からは実生も確認されるなど、令和 2 年 9 月時点において、高さ 0.7m 程度の草本が生育し、植生の復元が進んでいた。

今後、植生の復元が進むと推測されることから、夏季を以って本事後調査を終了した。

【G 直近の歩道ヤード】



平成 29 年度夏季(復元前)



平成 29 年度冬季



平成 30 年度冬季



平成 31 年度 (令和元年度) 冬季



令和 2 年度春季 (土砂投入後)



令和 2 年度夏季 (植栽後)

図 7.1.3-18 工事による副次的影響の復元箇所の回復状況

7.1.4 動物

1) 周辺林内の乾燥化による貴重な動物種の生息状況

a) G 地区

G 地区における貴重な動物種のうち、周辺林内の乾燥化の影響を受けるおそれのある種の生息状況を表 7.1.4-1 に示した。

出現種は評価図書で 46 種、工事前調査の平成 27 年度では 29 種、平成 28 年度で 36 種、工事中の調査(平成 28 年度)では 33 種が確認されている。存在・供用時となった平成 29 年度は 55 種、平成 30 年度は 57 種、令和元年度は 55 種、令和 2 年度は 43 種であった。

なお、工事前から工事中の調査については着陸帯やG 進入路の改変区域から 50m の範囲で実施しており、調査地区全体を調査範囲としている評価図書の調査、存在・供用時調査とは調査範囲が大きく異なる。

評価図書における調査での確認種数と比較すると、令和 2 年度調査の確認種数は同程度であった。

評価図書における調査で確認されず、事後調査で新たに確認された重要な動物種は、
等の 28 種であった。令和 2 年度に新たに確認された種はなかった。

評価図書における調査で確認された重要な動物種のうち、事後調査で確認のない種は、
の 6 種であった。

評価図書のための調査、工事前調査及び工事中調査それぞれにおいて確認された貴重な動物種の個体数は、評価図書に個体数の表記がないこと、また、工事前、工事中の調査範囲が評価図書のための調査時と異なることから一概に比較はできない。他方、本年度調査と調査範囲が同一である着陸帯の存在・供用時平成 29 年度調査及び次年度の平成 30 年度調査、令和元年度調査の結果と比較すると、各調査において確認された貴重な動物種の個体数に顕著な増減は確認されなかった。

表 7.1.4-1 貴重な動物種の確認状況 (G 地区)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	学名	確認状況							特定状況																				
						平成27年度 工事前	平成28年度 工事前 工事中		平成29年度	令和元年度 存在・供用時		令和2年度	天然記念物	種の保存法	環境省	沖縄県																	
1	哺乳類																																
2																																	
3																																	
4																																	
5																																	
6																																	
7						鳥類																											
8																																	
9																																	
10																																	
11																																	
12																																	
13																																	
14																																	
15																																	
16																																	
17																																	
18																																	
19																																	
20	爬虫類																																
21																																	
22																																	
23																																	
24																																	
25																																	
26																																	
27						両生類																											
28																																	
29																																	
30																																	
31																																	
32																																	
33																																	
34																																	
35	昆虫類																																
36																																	
37																																	
38																																	
39																																	
40																																	
41																																	
42																																	
43																																	
44																																	
45																																	
46																																	
47																																	
48																																	
49	その他																																
50																																	
51																																	
52																																	
53																																	
54						植物界																											
55																																	
56																																	
57																																	
58																																	
59																																	
60																																	
61																																	
62																																	
63																																	
64																																	
65																																	
66																																	
67																																	
68																																	
69																																	
70																																	
71																																	
72																																	
73																																	
74																																	
計		27種	62種	74種		46種	29種	36種	33種	55種	57種	55種	43種	13種	11種	56種																	

注1) 評価図書の確認種は、平成10～11年、14～15年度、平成17年度の確認種である。
 注2) 平成27年度の調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の緑地から外側へ50m範囲内での確認状況を示す。
 注3) 平成28年度の調査結果は、G着陸帯、G進入路、G直近作業ヤードの緑地から外側へ50m範囲内での確認状況の合計を示す。
 注4) 平成29年度～令和2年度の調査結果は、G地区全域での確認状況を示す。
 注5) 「※」は、野外で識別できない、カテゴリの異なる複数の種を含む可能性があることを示す。

b) H 地区

H 地区における貴重な動物種のうち、周辺林内の乾燥化の影響を受けるおそれのある種の生息状況を表 7.1.4-2 に示した。

出現種は評価図書で 40 種、工事前調査では平成 28 年度で 20 種、工事中の調査(平成 28 年度)では 20 種が確認されている。存在・供用時となった平成 29 年度は 47 種、平成 30 年度は 54 種、令和元年度は 56 種、令和 2 年度は 48 種が確認された。

なお、工事前から工事中の調査については着陸帯から 50m の範囲で実施しており、調査地区全体を調査範囲としている評価図書の調査、存在・供用時調査とは調査範囲が大きく異なる。

評価図書における調査での確認種数と比較すると、令和 2 年度調査の確認種数は同程度であった。

評価図書における調査で確認されず、事後調査で新たに確認された重要な動物種は、等の 26 種であった。令和 2 年度はが新たに確認された。

評価図書における調査で確認された重要な動物種のうち、事後調査で確認のない種は、の 2 種であった。

確認個体数については、評価図書に個体数の表記がないこと、工事前、工事中は調査範囲が異なることから一概に比較はできないが、存在・供用時のモニタリングでは顕著な増減は確認されず、生息状況は安定しているものと考えられた。

c) N-1 地区

N-1 地区における貴重な動物種のうち、周辺林内の乾燥化の影響を受けるおそれのある種の生息状況を表 7.1.4-3 に示した。

出現種は評価図書で 41 種、工事前調査では平成 26 年度で 25 種、平成 28 年度で 29 種、工事中の調査(平成 28 年度)では 29 種が確認されている。存在・供用時となった平成 29 年度は 48 種、平成 30 年度は 58 種、令和元年度は 57 種、令和 2 年度は 42 種が確認された。

なお、工事前から工事中の調査については着陸帯から 50m の範囲で実施しており、調査地区全体を調査範囲としている評価図書の調査、存在・供用時調査とは調査範囲が大きく異なる。

評価図書における調査での確認種数と比較すると、令和 2 年度調査の確認種数は同程度であった。

評価図書における調査で確認されず、事後調査で新たに確認された重要な動物種は、
等の 30 種であった。は令和 2 年度調査で新たに確認された。

評価図書における調査で確認された重要な動物種のうち、事後調査で確認のない種は、の 2 種であった。ミサゴは沿岸部を主に利用する猛禽類であり、山地に位置する事業実施区域周辺の利用は少ないものと考えられる。

確認個体数については、評価図書に個体数の表記がないこと、工事前、工事中は調査範囲が異なることから一概に比較はできないが、存在・供用時のモニタリングでは顕著な増減は確認されず、生息状況は安定しているものと考えられた。

2) ヘリコプター飛行時の騒音及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況

a) G 地区

(a) 鳥類

G 地区における貴重な鳥類の繁殖状況を表 7.1.4-4 に示した。

令和 2 年度調査では [] (営巣)、 [] (巣立ち雛) の 2 種で繁殖が確認された。 []

[] の 5 種の繁殖の可能性があることが確認された。。

評価図書調査において繁殖が確認された鳥類は [] 1 種であった。 [] [] については、工事前調査(平成 27 年度～平成 28 年度)、存在・供用時となった平成 30 年度～令和 2 年度調査においても繁殖が確認されている。工事前調査では、 [] の他に [] の繁殖が確認されており、存在・供用時調査においても継続して繁殖が確認された。

繁殖及び繁殖の可能性のある種の種数でみると、工事前調査では 5～6 種であったのに対し、存在・供用時調査では 5～8 種と同程度であった。

表 7.1.4-4 貴重な鳥類の繁殖状況(G 地区)

No.	目名	科名	和名	評価図書	工事前		存在・供用			
					平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	[]	[]	[]			○	-	○		○
2						-	○		○	
3				○		-	○			
4				○	○	-	◎	◎	○	
5				◎	◎	◎	-	◎	◎	◎
6				○	○	-	○	○	○	
7				○	◎	-	◎	◎	◎	
8				○		-	○	○	○	
計	4目	5科	8種	1種	6種	5種	-	8種	5種	7種

注)1 「◎」は繁殖を確認、「○」は繁殖の可能性がある。

注)2 「繁殖」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成 16 年)に示される繁殖可能性の区分(ランク a)に準じる。

注)3 「可能性」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成 16 年)に示される繁殖可能性の区分(ランク b)に準じる。

注)4 平成 29 年度は調査を実施していない。

(b) カエル類

G 地区における貴重なカエル類の繁殖状況を表 7.1.4-5 に示した。

令和 2 年度調査では、 の 4 種であった。このうち、 及び で繁殖が確認された。繁殖の可能性のある種としては、 が確認された。

評価図書の調査において繁殖が確認された種は、、 の 3 種であった。この 3 種については、工事前、存在・供用時の調査で繁殖が確認された。したがって、当該 3 種は継続的に着陸帯周辺で繁殖しているものと考えられる。令和 2 年度調査では の繁殖の確認はないが、本種の繁殖期である冬季に調査を実施していないためであり、着陸帯の存在・供用時において、貴重なカエル類の繁殖状況に大きな変化はないものと考えられる。

表 7.1.4-5 貴重なカエル類の繁殖状況 (G 地区)

No.	目名	科名	和名	評価図書	工事前		工事中	存在・供用					
					平成27年度	平成28年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度
					春季	春季	冬季	冬季	春季	冬季	春季	冬季	春季
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>		○	○			○				
2				◎	◎	◎		◎		◎		◎	
3							○		◎	○	◎	○	
4				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
5				◎	◎	◎		◎		◎	○	◎	
計	1目	3科	5種	3種	3種	4種	2種	3種	3種	3種	3種	4種	3種

注 1) 「◎」は繁殖確認、「○」は繁殖の可能性があることを示す。

注 2) 繁殖は、産卵、産卵場の確認(集団繁殖)、包接、卵(卵塊)、幼生、小型の幼体の確認と定義した。

注 3) 繁殖の可能性は、ある程度成長した幼体を確認した場合と定義した。

b) H 地区

(a) 鳥類

H 地区における貴重な鳥類の繁殖状況を表 7.1.4-6 に示した。

令和 2 年度調査では [] (営巣)、 [] (営巣) の計 2 種で繁殖が確認された。繁殖の可能性のある確認は、 [] の 3 種であった。

評価図書調査では、繁殖の可能性のある種として [] の 2 種が確認されている。工事前調査では、 [] の 2 種で繁殖が確認され、繁殖の可能性のある種として [] が確認されており計 3 種であった。存在・供用時調査では繁殖及び繁殖の可能性のある種は計 5~6 種となっている。したがって、評価図書のための調査及び工事前の調査と比較して、本年度の調査において確認された繁殖及び繁殖の可能性のある種は多くなっていたと結論付けた。

表 7.1.4-6 貴重な鳥類の繁殖状況 (H 地区)

No.	目名	科名	和名	評価図書	工事前	存在・供用			
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1								○	
2						-		○	○
3						-	○	○	
4						-	○	○	
5				○	◎	-	◎	◎	◎
6					◎	-			○
7				○	○	-	◎	◎	◎
8						-	○		○
計	5目	6科	8種	2種	3種	-	5種	6種	5種

注)1 「◎」は繁殖を確認、「○」は繁殖の可能性がある。
 注)2 「繁殖」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成16年)に示される繁殖可能性の区分(ランク a)に準じる。
 注)3 「可能性」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成16年)に示される繁殖可能性の区分(ランク b)に準じる。
 注)4 平成29年度は調査を実施していない。

(b) カエル類

H 地区における貴重なカエル類の繁殖状況を表 7.1.4-7 に示した。

令和 2 年度調査では 4 種の貴重なカエル類が確認され、 で繁殖が確認された。繁殖の可能性のある種は、、 であった。

評価図書の調査において繁殖が確認された種は、 の 3 種であった。この 3 種については着陸帯の存在・供用時において繁殖が確認されており、貴重なカエル類の繁殖状況に大きな変化はないものと考えられる。

表 7.1.4-7 貴重なカエル類の繁殖状況 (H 地区)

No.	目名	科名	和名	評価 図書	工事前	工事中	存在・供用							
					平成28 年度 春季	平成28 年度 冬季	平成29 年度 冬季	平成30年度		令和元年度		令和2 年度 春季		
								春季	冬季	春季	冬季			
1													○	
2				※	◎		◎		◎	○	◎			
3										○				○
4				◎		○		◎	◎	○	◎			
5				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
6				◎	◎	○		◎	○	◎	○	◎		◎
計	1目	3科	6種	3種	3種	3種	2種	3種	4種	5種	4種	3種		

- 注 1) 「◎」は繁殖確認、「○」は繁殖の可能性あることを示す。
 注 2) 繁殖は、産卵、産卵場の確認(集団繁殖)、包接、卵(卵塊)、幼生、小型の幼体の確認と定義した。
 注 3) 繁殖の可能性は、ある程度成長した幼体を確認した場合と定義した。
 注 4) 「※」は、評価図書調査時には貴重種に指定されていなかったため繁殖状況が不明であることを示す。

c) N-1 地区

(a) 鳥類

N-1 地区における貴重な鳥類の繁殖状況を表 7.1.4-8 に示した。

令和 2 年度調査では [] (営巣・巣立ち雛)、 [] (巣跡) の 2 種で繁殖が確認された。繁殖の可能性のある確認は、 [] の 4 種であった。

評価図書では、繁殖の可能性のある種として [] が確認されている。 [] については、工事中の平成 27 年度、存在・供用時の令和 2 年度調査においても繁殖が確認され、継続的に N-1 地区において繁殖しているものと考えられる。工事前調査では、 [] の他に [] の繁殖が確認されており、令和 2 年度調査でも同様に [] の繁殖が確認された。

繁殖及び繁殖の可能性のある種数でみると、工事前調査では 3~5 種であったのに対し、存在・供用時の令和 2 年度調査では 6 種と多くなっていた。

表 7.1.4-8 貴重な鳥類の繁殖状況 (N-1 地区)

No.	目名	科名	和名	評価図書	工事前			存在・供用				
					平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1	[]	[]	[]	[]			○	-	○	○	○	
2								-	○			
3					○			-	○	○		
4								-	○			
5					○	○		-		◎	○	
6					○	○	◎	○	-	◎	◎	◎
7						○		-	○	○	○	
8						○	◎		-	◎	◎	◎
9						○	○	○	-	○	○	○
計	4目	5科	9種	1種	5種	5種	3種	-	8種	7種	6種	

注1 「◎」は繁殖を確認、「○」は繁殖の可能性がある。

注2 「繁殖」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成16年)に示される繁殖可能性の区分(ランク a)に準じる。

注3 「可能性」は、「鳥類繁殖状況調査報告書」(環境庁編、平成16年)に示される繁殖可能性の区分(ランク b)に準じる。

注4 平成29年度は調査を実施していない。

(b) カエル類

N-1 地区における貴重なカエル類の繁殖状況を表 7.1.4-9 に示した。

令和 2 年度調査では [] の 5 種の貴重なカエル類が確認され、全種で繁殖が確認された。

評価図書の調査において繁殖が確認された種は、 [] の 3 種であった。 [] については工事前調査、工事中調査、存在・供用時となった平成 29 年度調査で繁殖が確認されていなかったが、平成 30 年度から令和 2 年度調査で継続的に繁殖していることが確認された。 [] については、工事中調査、平成 29 年度の存在・供用時調査で繁殖が確認されなかったが、平成 30 年度から令和 2 年度調査で繁殖が確認された。

なお、 [] については工事前から存在・供用時にかけて安定して繁殖が確認されている。

以上より、着陸帯の存在・供用時において、貴重なカエル類の繁殖状況に大きな変化はないものと考えられる。

表 7.1.4-9 貴重なカエル類の繁殖状況 (N-1 地区)

No.	目名	科名	和名	評価 図書	工事前			工事中		存在・供用						
					平成26年度		平成27年度		平成28 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30年度		令和 元年度		令和2 年度
					春季	冬季	春季	冬季	春季	冬季	冬季	春季	冬季	春季	冬季	春季
1	[]	[]	[]	※	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2							○				◎	◎	◎	◎	◎	
3				◎		○						○	◎	○	◎	◎
4				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5				◎		○	○	◎	◎			○	◎	◎	○	◎
計	1目	2科	5種	3種	2種	4種	3種	4種	3種	2種	3種	5種	4種	5種	4種	5種

- 注 1) 「◎」は繁殖確認、「○」は繁殖の可能性があることを示す。
- 注 2) 繁殖は、産卵、産卵場の確認(集団繁殖)、包接、卵(卵塊)、幼生、小型の幼体の確認と定義した。
- 注 3) 繁殖の可能性は、ある程度成長した幼体を確認した場合と定義した。
- 注 4) 「※」は、評価図書調査時には貴重種に指定されていなかったため繁殖状況が不明であることを示す。

7.1.5 生態系

1) ノグチゲラの人工営巣木の利用状況

ノグチゲラの人工営巣木の利用状況を表 7.1.5-1～表 7.1.5-3 に示した。

専門家へのヒアリングの結果、「」の巣穴は下に掘り込まないため、巣の深さを確認すると利用した種が判別可能である。」という助言が得られたことから、形成された巣の深さを計測したところ G 地区(2 巣)、H 地区(1 巣)が掘り込まれておりノグチゲラによる造巣であることが判明した。また、N-1 地区においても、ノグチゲラのつつき跡が確認できた。

以上より、人工営巣木の利用は今後進んでいくものと考えられたことから、令和 2 年度調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-1 ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(G 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
			3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月
G	10	-	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11	-	△	-	△	-	-	-	-	-	-	△	-	-
	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○*	-	-	-
	13	-	-	-	-	-	-	△	○*	-	-	-	-	-
	14	-	-	-	○*	○*	△	△	-	-	-	-	-	△

注 1) 「○」は営巣利用、「△」はつつき跡が確認された事を示す。

注 2) 巣穴の形状(巣口の形状、深さ)から、No. 12、No. 14 の人工営巣木に形成された穴はノグチゲラ、No. 13 のものはによるものと考えられた。

表 7.1.5-2 ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(H 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
			3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月
H	6	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
	7	-	-	-	-	○*	-	-	-	△	-	-	-	○*
	8	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	△	-

注 1) 「○」は営巣利用、「△」はつつき跡が確認された事を示す。

注 2) No. 7 の人工営巣木は、巣穴の形状(巣口の形状、深さ)から平成 30 年のものはノグチゲラ、令和 2 年のものはによるものと考えられた。

表 7.1.5-3 ノグチゲラの人工営巣木の利用状況(N-1 地区)

地区	No.	平成29年度	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
			3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	5月	6月
N-1	2	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△

注) 「△」はつつき跡が確認された事を示す。

2) ノグチゲラの人工採餌木の利用状況

(1) N-1 地区

N-1 地区における人工採餌木の利用状況を表 7.1.5-4 に示した。

令和 2 年度は人工採餌木の設置後 4 年目の調査となった。平成 30 年度から令和 2 年度調査にかけて採餌利用は増加し、令和 2 年の春季調査においても安定した利用状況であったことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

なお、G、H 地区については、平成 30 年度調査において採餌利用は増加しており、令和元年の春季調査においても安定した利用状況であったことから、令和元年度春季調査を以って本事後調査を終了している。

表 7.1.5-4 ノグチゲラの人工採餌木の利用状況(N-1 地区)

地区	No.	平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和 2年度
		春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
N-1	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10													

注) N-1 地区の人工採餌木は、平成 28 年に設置された。

3) 注目種(20種)の生息・繁殖状況

注目種の生息・繁殖状況について、G、H、N-1の3地区では平成29年度の春季調査を実施していない、令和2年度は春季調査のみの実施であるなど、調査努力量に若干の相違があるが、調査地区全域を踏査し各種を探索する手法等は同一であることから、評価図書での確認状況から顕著な減少が見られるか、地区内で繁殖が行われているかという点に特に注意して比較を行った。

(1) ノグチゲラ

ノグチゲラの確認状況を表 7.1.5-5～表 7.1.5-7 に示した。

G地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認され、□か所で営巣が確認された。存在・供用時調査では生体□個体、営巣□か所で推移しており、評価図書の調査では生体□個体、営巣□ヶ所の確認であったことから、確認状況は同程度であり生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

H地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認され、□か所で営巣が確認された。存在・供用時調査では生体□個体、営巣□か所で推移しており、評価図書の調査では生体□個体、営巣□ヶ所の確認であったことから、確認状況は評価図書の結果を上回っており生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

N-1地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認され、□か所で営巣が確認された。存在・供用時調査では生体は□個体、営巣が□か所で推移しており、評価図書の調査では生体□個体、営巣□ヶ所の確認であったことから、確認状況は同程度であり生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

以上より、事業実施区域におけるノグチゲラの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和2年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-5 ノグチゲラの確認状況比較 (G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
造巣						
巣跡						
掘りかけ巣						
採餌痕						

表 7.1.5-6 ノグチゲラの確認状況比較 (H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
造巣						
巣跡						
掘りかけ巣						
採餌痕						

表 7.1.5-7 ノグチゲラの確認状況比較 (N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
造巣						
巣跡						
掘りかけ巣						
採餌痕						

(2) ヤンバルクイナ

ヤンバルクイナの確認状況を表 7.1.5-8～表 7.1.5-10 に示した。

ヤンバルクイナについては、評価図書のための調査において巣や雛等といった繁殖を確認するための証拠は発見されなかった。

着陸帯を離着陸するヘリの騒音がヤンバルクイナの繁殖活動に影響を及ぼし得ると考えられていたが、供用時の調査ではH地区及びN-1地区で巣立ち雛を連れた家族群が確認されていることから、当該地区における繁殖に成功したものと考えられる。

G地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認された。存在・供用時調査では生体は□個体で推移しており、評価図書の調査では生体□個体の確認であったことから、確認状況は評価図書の結果を上回っており生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

H地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認された。存在・供用時調査では生体は□個体で推移しており、評価図書の調査では生体□個体の確認であったことから、確認状況は評価図書の結果を上回っている。また、令和元年度には巣立ち雛を連れた家族群が確認されており、生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

N-1地区では、令和2年度調査において生体□個体が確認された。存在・供用時調査では生体は□個体で推移しており、評価図書の調査では生体□個体の確認であったことから、確認状況は同程度であった。また、平成30年度、令和元年度には巣立ち雛を連れた家族群が確認されており、生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

以上より、事業実施区域におけるヤンバルクイナの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和2年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-8 ヤンバルクイナの確認状況比較(G地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
家族群						
足跡						
採餌痕						

表 7.1.5-9 ヤンバルクイナの確認状況比較(H地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
家族群						
足跡						
採餌痕						

表 7.1.5-10 ヤンバルクイナの確認状況比較(N-1地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	繁殖					
家族群						
足跡						
採餌痕						

(3) ホントウアカヒゲ

ホントウアカヒゲの確認状況を表 7.1.5-11～表 7.1.5-13 に示した。

G 地区では、令和 2 年度調査においてホントウアカヒゲの営巣の確認はなかったが、本年度営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されていることから、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数では評価図書のための調査の結果を下回っているものの、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。

H 地区では、令和 2 年度調査において□ヶ所でホントウアカヒゲの営巣が確認された。また、令和 2 年度に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されていることから、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数においても評価図書のための調査の結果を上回っており、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。

N-1 地区では、令和 2 年度調査においてホントウアカヒゲの営巣の確認はなかったが、令和 2 年度に営巣したものと考えられる巣跡が□ヶ所で確認されていることから、繁殖状況は良好であったものと考えられた。生体の確認個体数では評価図書のための調査の結果を下回っているものの、生息・繁殖状況に顕著な変化はないものと考えられた。

以上より、事業実施区域におけるホントウアカヒゲの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-11 ホントウアカヒゲの確認状況比較 (G 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
繁殖	営巣					
巣跡						

表 7.1.5-12 ホントウアカヒゲの確認状況比較 (H 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
繁殖	営巣					
巣跡						

表 7.1.5-13 ホントウアカヒゲの確認状況比較 (N-1 地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
繁殖	営巣					
巣跡						

(4) ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ

ヤンバルホオヒゲコウモリは、評価図書のための調査では生息が確認されていなかった。着陸帯等の存在・供用時のモニタリング調査においても全ての地区で確認されていないことから、これらの地区で生息している可能性は低いものと考えられる。

リュウキュウテングコウモリの確認状況を表 7.1.5-14 に示した。

令和2年度は、いずれの地区においてもリュウキュウテングコウモリの確認はなかった。リュウキュウテングコウモリは、評価図書時のための調査時にはいずれの地区においても確認されていないが、着陸帯の存在・供用時の事後調査では、G地区で平成29年及び平成30年の調査でそれぞれ□個体、N-1地区では平成29年度から令和元年度の調査で□個体が確認された。着陸帯等の存在・供用時のモニタリング調査でのリュウキュウテングコウモリが確認された例の多くは、環境保全措置として地区内に設置された巣箱を利用している個体の確認であった。

以上より、令和2年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-14 リュウキュウテングコウモリの確認状況比較

G地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					

H地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					

N-1地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					

(5) オキナワトゲネズミ

オキナワトゲネズミは、評価図書のための調査時に生息が確認されていなかった。供用時の事後調査においても G、H、N-1 地区で平成 29 年度から令和 2 年度にかけて確認されなかったことから、当該地区でオキナワトゲネズミ生息している可能性は低いものと考えられる。

(6) リュウキュウイノシシ

リュウキュウイノシシの確認状況を表 7.1.5-15～表 7.1.5-17 に示した。

G 地区では、令和 2 年度調査で生体の確認はなかった。□ 個体の生体が確認された評価図書のための調査結果と比較すると少ないものの、リュウキュウイノシシの掘り返しや足跡といった生息の痕跡が、存在・供用時調査期間を通じて広範囲で確認されていることから、当該地区における同種の生息状況に顕著な変化はないものと考えられた。

H 地区では、令和 2 年度調査で生体の確認はなかった。評価図書の調査結果(□ 個体)と比較すると少ないものの、掘り返しや足跡といった痕跡が、存在・供用時調査期間を通じて広範囲で確認されていることから、生息状況に顕著な変化はないものと考えられた。

N-1 地区では、令和 2 年度調査で生体 □ 個体が確認された。評価図書の調査においては個体の確認はなかった。リュウキュウイノシシの掘り返しや足跡といった痕跡が、存在・供用時調査期間を通じて広範囲で確認されていることから、生息状況に顕著な変化はないものと考えられた。

以上より、事業実施区域におけるリュウキュウイノシシの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-15 リュウキュウイノシシの確認状況比較(G地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
ヌタ場						
掘り返し						
足跡						
糞						

表 7.1.5-16 リュウキュウイノシシの確認状況比較(H地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
ヌタ場						
掘り返し						
足跡						
糞						

表 7.1.5-17 リュウキュウイノシシの確認状況比較(N-1地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
ヌタ場						
掘り返し						
足跡						
糞						

(7) リュウキュウヤマガメ

リュウキュウヤマガメの確認状況を表 7.1.5-18～表 7.1.5-20 に示した。

G 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体が確認された。評価図書のための調査では 個体が確認されており、確認個体数は減少している。しかしながら、存在・供用時のモニタリング調査で確認された生体の個体数が 個体で推移しているほか、幼体も確認されていることから、リュウキュウヤマガメの当該地区での生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

H 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体が確認された。評価図書のための調査では生体 個体が確認されていたことから、確認された生体の個体数は増加している。存在・供用時のモニタリング調査では 個体で推移しているほか、幼体の確認もある。したがって、当該地区におけるリュウキュウヤマガメの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

N-1 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体が確認された。評価図書のための調査では生体 個体が確認されている。令和元年度調査と評価図書のための調査において確認された個体数は減少している。しかしながら、供用時のモニタリング調査では生体 個体で推移しているほか、幼体の確認もあることから、生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

以上より、事業実施区域におけるリュウキュウヤマガメの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-18 リュウキュウヤマガメの確認状況比較(G地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
繁殖	幼体					

表 7.1.5-19 リュウキュウヤマガメの確認状況比較(H地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
繁殖	幼体					

表 7.1.5-20 リュウキュウヤマガメの確認状況比較(N-1地区)

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	死体					
繁殖	幼体					

(8) ハブ、ヒメハブ

ハブの確認状況を表 7.1.5-21 に、ヒメハブの確認状況を表 7.1.5-22 に示した。

ハブは、評価図書のための調査において G 地区で 2 個体の生体を確認されている。令和 2 年度調査では G 地区で 1 個体の生体を確認された。いずれの地区においても評価図書のための調査において確認された個体数と同様の確認状況であること、供用時の調査において継続して確認されていることから、各地区においてハブの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

ヒメハブは、評価図書のための調査において各地区で 12～61 個体の生体を確認された。令和 2 年度調査では、G 地区で 17 個体、H 地区で 10 個体、N-1 地区で 9 個体の生体を確認された。評価図書のための調査の結果と比較していずれの地区も減少しているが、令和 2 年度は、ヒメハブが集中して確認される冬季調査を実施していないことに起因するものと考えられる。供用時のモニタリング調査では、G 地区で 17～87 個体、H 地区で 10～64 個体、N-1 地区で 9～67 個体で継続的に確認されているほか、全地区で幼体も確認されていることから、各地区においてヒメハブの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられる。

以上より、事業実施区域におけるハブ及びヒメハブの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-21 ハブの確認状況比較

G地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	2	1	2	2	1
	繁殖	0	0	1	0	0

H地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	0	3	5	3	0
	繁殖	0	0	0	0	0

N-1地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	0	2	0	1	0
	繁殖	0	0	0	0	0

表 7.1.5-22 ヒメハブの確認状況比較

G地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	22	36	87	55	17
	死体	2	0	0	0	0
繁殖	幼体	0	2	1	0	0

H地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	12	38	64	43	10
	死体	0	0	0	0	0
繁殖	幼体	0	4	2	0	0

N-1地区

区分/季節		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体	61	51	67	35	9
	死体	0	0	0	0	0
繁殖	幼体	0	4	5	2	0

(9) オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル

山地性カエル類4種(オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル)の生息状況について、以下のとおり整理した。カエル類は鳴き声により繁殖のためのコミュニケーションをとることから、着陸帯を離着陸するヘリの騒音がこれらの山地性カエル類4種の繁殖活動に影響を及ぼし得ると考えられてきた。

オキナワイシカワガエルの確認状況を表 7.1.5-23～表 7.1.5-25 に示した。

オキナワイシカワガエルの繁殖期は12月～3月とされ、この時期に個体や鳴き声等による確認が多くなる。令和2年度調査は春季調査のみ実施していることから、全地区で確認は少なくなっている。

G地区では、令和2元年度調査においてオキナワイシカワガエルの確認はなかった。存在・供用時調査では□個体で推移しており、評価図書のための調査では□個体の生体が確認されたため、確認個体数は減少している。ただし、平成30年度、令和元年度調査では幼体□個体が確認されたことから、当該着陸帯の周辺でオキナワイシカワガエルが繁殖した可能性がある。

H地区では、令和2年度調査で生体□個体が確認された。存在・供用時調査では□個体で推移しており、評価図書のための調査では生体□個体が確認されたことから、確認された個体数は増加した。平成30年度、令和元年度調査では繁殖も確認されていることから、当該地区におけるオキナワイシカワガエルの生息・繁殖状況は良好であるものと考えられた。

N-1地区では、令和2年度調査で生体□個体、幼生□個体が確認された。存在・供用時調査では生体□個体で推移しており、評価図書のための調査では□個体の生体が確認されたことから、両調査において確認された生体の個体数は同程度であったと考えられた。また、平成30年度から令和2年度調査では幼生が確認されていることから、当該地区におけるオキナワイシカワガエルの生息・繁殖状況は良好であると考えられた。

以上より、事業実施区域におけるオキナワイシカワガエルの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和2年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-23 オキナワイシカワガエルの確認状況比較(G地区)

区分		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-24 オキナワイシカワガエルの確認状況比較(H地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-25 オキナワイシカワガエルの確認状況比較(N-1地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

注1)「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm前後の小型の幼体の確認と定義した。

注2)「繁殖可能性」は、繁殖確認には至らないが、2cm前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した

ハナサキガエルの確認状況を表 7.1.5-26～表 7.1.5-28 に示した。

ハナサキガエルの繁殖期は12月～2月とされ、この時期に個体や鳴き声等による確認が多くなる。令和2年度調査は春季調査のみ実施していることから、全地区で確認は少なくなっている。

G地区では、令和2年度調査で生体□個体が確認された。存在・供用時調査では生体□個体、幼生□個体で推移している。評価図書のための調査では生体□個体、幼生□個体が確認されており、同程度の確認状況となっている。平成30年度、令和元年度調査では卵塊や幼生が確認されたことから、当該地区におけるハナサキガエルの生息・繁殖状況は良好であるものと考えられた。

H地区では、令和2年度調査で生体□個体、幼生□個体が確認された。存在・供用時調査では生体□個体、幼生□個体で推移している。評価図書のための調査では生体□個体であったことから、確認個体数は増加した。また、平成30年度から令和2年度にかけて繁殖が確認されており、繁殖状況に関しても評価図書のための調査と比較し増加していることから、当該地区におけるハナサキガエルの生息・繁殖状況は良好であるものと考えられた。

N-1地区では、令和2年度調査で生体□個体が確認され、□か所で卵塊が確認された。存在・供用時調査では生体□個体で推移している。評価図書のための調査では□個体が確認された。確認された生体の個体数は評価図書のための調査の結果と比較して減少しているものの、卵塊等の繁殖の数は増加し、また、幼体も確認された。したがって、当該地区におけるハナサキガエルは継続的に生息・繁殖しているものと考えられた。

以上より、事業実施区域におけるハナサキガエルの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和2年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-26 ハナサキガエルの確認状況比較 (G 地区)

区分		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-27 ハナサキガエルの確認状況比較 (H 地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-28 ハナサキガエルの確認状況比較 (N-1 地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

注 1) 「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm 前後の小型の幼体の確認と定義した。

注 2) 「繁殖可能性」は、繁殖確認には至らないが、2cm 前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した

ホルストガエルの確認状況を表 7.1.5-29～表 7.1.5-31 に示した。

G 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体、幼生 個体が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書のための調査では生体 個体、幼生 個体が確認されていることから、生体の確認個体数は増加した。繁殖の状況に注目すると、令和元年度調査において確認された幼生の個体数は減少しているものの、確認された繁殖場の数は同程度、若しくは増加していることから、当該地区におけるホルストガエルの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられた。

H 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体、幼生 個体が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書のための調査では生体 個体、幼生 個体が確認されたことから、生体の確認状況、繁殖状況ともに評価図書の調査を上回っていることから、当該地区におけるホルストガエルの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられた。

N-1 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体、幼生 個体が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書のための調査では生体 個体、幼生 38 個体が確認されたことから、生体の確認状況、繁殖状況ともに評価図書のための調査の結果を大きく上回っていることから、当該地区におけるホルストガエルの生息・繁殖状況は安定しているものと考えられた。

以上より、事業実施区域におけるホルストガエルの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-29 ホルストガエルの確認状況比較 (G 地区)

区分		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-30 ホルストガエルの確認状況比較 (H 地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-31 ホルストガエルの確認状況比較 (N-1 地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

注 1) 「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm 前後の小型の幼体の確認と定義した。

注 2) 「繁殖可能性」は、繁殖確認には至らないが、2cm 前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した

ナミエガエルの確認状況を表 7.1.5-32～表 7.1.5-34 に示した。

G 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体が確認され、 か所で卵塊が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書の調査では生体 個体、幼生 個体が確認されており、確認状況は同程度、若しくは減少しているが、継続的に卵塊や幼生が確認されており、生息・繁殖状況は安定しているものと考えられた。

H 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体、幼生 個体が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書の調査では生体 個体、幼生 個体が確認されており、確認個体数は増加している。繁殖の確認状況に注目すると、繁殖場や幼生の確認状況についても増加していることから、生息・繁殖状況は良好であるものと考えられた。

N-1 地区では、令和 2 年度調査で生体 個体、幼生 個体が確認された。存在・供用時調査では生体 個体、幼生 個体で推移している。評価図書の調査では生体 個体、幼生 個体が確認されており、確認状況は同程度、若しくは減少しているが、継続的に卵塊や幼生が確認されており、生息・繁殖状況は安定しているものと考えられた。

以上より、事業実施区域におけるナミエガエルの生息状況は安定しているものと考えられたことから、令和 2 年度春季調査を以って本事後調査を終了した。

表 7.1.5-32 ナミエガエルの確認状況比較(G地区)

区分		評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-33 ナミエガエルの確認状況比較(H地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

表 7.1.5-34 ナミエガエルの確認状況比較(N-1地区)

区分	区分	評価図書	H29	H30	R1	R2
個体の確認	生体					
	幼生					
繁殖	繁殖確認					
	繁殖可能性					

注1)「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm前後の小型の幼体の確認と定義した。

注2)「繁殖可能性」は、繁殖確認には至らないが、2cm前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した